

東京都退職校長会

会報



発行所 東京都退職校長会
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日本退公連・鈴木共同ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://totaikou.jp/>

●機を見て敏なる決断

コロナとの戦いが依然として続く。感染力の強いオミクロン株の派生型（BA・5）がニュースになった途端、国内感染者が22万人を超えた。世界の累計感染者数は、6億人に迫った。このコロナ第7波に本部は即座に対処。会員の安全を第一に7月22日付で「第四次緊急連絡」を発出した。心痛むが予定した7月27日の式典実行委員会と第一回支部長会を延期した。大袈裟だが常在戦場だ。本部は、常に機を見て敏なる決断を迫られる。まずは、この脅威を



様々な角度から、教育を俯瞰的に見る試練の時か。―茜色に輝く夕焼けを見て思う―
 東京都退職校長会会長 多田 丈夫

正しく恐れ、万全を期し、自ら身を守ることを求める道はない。ウイズ・コロナの中、ワクチン接種率の向上と今後の治療薬の開発が待たれる。

●貴重なレガシーを後世に

創立70周年の記念式典計画は、令和3年8月に起案され、以来、1年が経過した。今、エネルギー漲る記念式典委員会、記念誌作成委員会、記念特別事業委員会のゴールをめざす動きに熱い視線が集まる。まもなく、60周年を凌駕する具体的な式典のストーリーが全会員に明らかになるだろう。ここに再び誓う。「組織

の意思を未来に繋げ、皆で祝う70周年」を合言葉に、趣旨、内容、説明を積み上げ、心一つにして苦節10年のレガシー（歴史的遺産）を後世に伝えていく。関係諸団体や会員からの応援を待つ新たな協賛金募集計画も整った。淀みなく時が流れ、穏やかに冬が過ぎて、晴れて花咲き、躍動する令和5年5月の式典の日を迎えたい。

●定例化したZoom会議

コロナ禍で組織を動かすことに腐心している。この2年間、本部は実証実験を重ね、まず機能するZoom会議を定例化させた。今では役員が何時でも在宅で種々のZoom会議に参加できる環境を整えた。メリットは、安心・安全に会務が出来る、通勤や移動時間が有効活用でき、大幅なコスト削減につながる等だ。デメリットは、意思の疎通が困難で、内容が把握しにくいを主に挙げる。

さて、本部業務の安定化は、組織の安定化だ。対面会議への全面解除までは、ほど遠いが、さらなる会務の創意工夫を図っていく。ライフスタイルは変わっても、会議は組織を思い、熱く語り、実り多い、楽しいものであってほしいと願っている。

●見過ごせない難題だが

このところ、矢継ぎ早に気になる教育課題が報道されている。新聞の見出しは、深刻化する教員不足、無計画な採用抑制、教育財政基盤の脆弱化、学校における働き方改革、データ化する新教員研修制度、部活動の地域移行化、等々を煽情的に伝える。いずれも見過ごせない現実で難題だ。ある識者は言う。「教師は、教育界の内部からのみ学ぶ割合が極端に高すぎる。今、自分自身のこれまでの常識を疑いながら、多種多様なジャンルを学ぶ中で、改めて教育を俯瞰的に見る力が教師に求められている」と。ずばりの指摘か。さて、俯瞰的とは、これらの難題を深掘りする総合的な人間力かもしれない。庭に、〈情熱〉〈魂の花〉を花言葉とするブルーゲンピリアが咲いている。

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 令和四年度 園・学校現場の声
- P3 新入会員の声
令和4年度第2回会員研修会案内
- P4 支部だより
- P5 コラム 創立70周年に向けて
- P6 クラブ紹介
- P7 高齢者叙勲受章会員
- P8 物故者、応募コーナー、編集後記

令和四年度 園・学校現場の声

八月開催予定の五団体との教育懇談会が、コロナ感染症拡大のために今年度も中止を余儀なくされました。しかし、各会長の皆様には、現場の声を心待ちにする本会の会員諸氏の期待に応えていただき、懇談会に代わる「園・学校現場の声」を寄稿していただきました。

■幼稚園・こども園

地域の幼児教育の中核として

東京都国公立幼稚園・こども園長会

会長 高橋由美子

「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」では、施設類型を問わず、幼児教育の質的向上と小学校教育との円滑な接続の重要性が示されました。その中で、「幼児教育は、小学校教育の前倒しではないこと」や、「遊びを通じた学びの大切さ」が明示されています。これらは、これまで国公立幼稚園・こども園が大事にしてきた教育内容です。

しかし公立園では、現在、園児数の減少が進んでいます。その一方で、特別な配慮を必要とする幼児は年々増加傾向にあります。また、園児数の減少に伴う学級減により、新規の教員を採用しない区市が増えています。様々な課題がある中ですが、

公教育として、地域の全ての子どもたちのウェルビーイングのために今後も研鑽を積み、地域における幼保小連携の中核的な役割を担いながら、質の高い幼児教育を推進してまいります。

■小学校

教職が魅力ある仕事であり続けるために

東京都公立小学校長会

会長 大字 弘一郎

教職課程を履修している学生を対象にしたアンケートで、教員を目指すきっかけを聞いたところ、最も多かった回答は、「子供の頃に出会った教員に憧れた」というものでした。教職の魅力について聞くと、「子供の成長に間近でかかわることがで

きる」、「授業やクラス経営など、ルールはありながらもアレンジが効く」という回答が上位を占めました。

この結果は、40年以上前に私が教職を目指した思いと同じでした。「子供たちのためにできることを、学校という場で思い切りやりたい」、「あの時に憧れた先生をいつか越えたい」という強い思いが、教職を目指し、教職を今まで続けてきた原動力です。

日々子供たちの前に立ち、その成長にかかわる先生の姿が魅力的でなければ、先生を目指そうとする次の世代が育つはずがありません。原点に戻って、学校経営を見つめ直そうと思っています。

■中学校

中学校教育の課題

東京都中学校長会

会長 山口 茂

- 1 コロナ感染症対策と教育活動



パンデミックから3年。中学校では、感染対策を講じながら教育活動を進めている。7月か

ら始まった第7波の影響は大きいですが、行動制限のない中、校長的的確な判断と決断がこれまでに求められている。ウィズコロナ時代にあっても正しく恐れながら、「質の高い中学校教育」を継続展開していく必要がある。

2 新たな課題への対応

都立高校入試への「英語スピーキングテスト」導入、「学校部活動の地域移行」の実施等々、新たな課題への対応が求められている。特に、部活動の地域移行は、今後3年間をかけた土・日の活動を地域に移行していく。中学校にとっては、大きな改革である。学校だけでは解決できないこうした課題について、校長は、関係諸機関としっかりと連携し、生徒にとって最善の学校経営を進めていく必要がある。

■高等学校

東京都公立高等学校長協会

会長 梅原 章司

令和四年度に入っても、これまで同様、新型コロナウイルス感染症対策を常に念頭において

学校経営を進める状況が続いていますが、新型コロナウイルス感染症とは関係なく、今年度の都立高等学校は大きな変化の年ともなっています。新学習指導要領の段階的实施、観点別学習状況の評価導入、スクールミツションに基づくスクールポリシーの策定実施、一人1台端末の導入、成人年齢十八歳に伴う対応などが挙げられます。それに加えて、業務改善、教職員の働き方改革、大学入試改革への対応、入選男女別定員制緩和への対応など引き続き解決が迫られている課題も山積しています。

コロナ禍が終息しても、コロナ禍の前に戻るわけではありません。新型コロナウイルス感染症対策とともに学校運営を進めてきた二年間を前向きに捉え、これからの高等学校に求められるものは何かを考えて未来志向の学校教育を推進することが重要だと考えます。

■特別支援学校
共生社会を目指して

東京都立特別支援学校校長会

会長 丹野 哲也

東京都退職校長会会員の皆様には、日頃より、都の特別支援教育の推進に御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、都では本年三月に東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画を策定・公表しました。同計画では、共生社会の形成に向けた全ての学びの場における特別支援教育の充実が掲げられています。誰もが共に交流し、支え合うことのできる社会に向け、特別支援学校で学ぶ子供たちの様々な交流機会を創出することが肝要です。

例えば、先に開催された全国高等学校総合文化祭東京大会では、多くの部門で全国の高等学校の生徒と共に、特別支援学校の生徒が活躍し、その姿を全国に発信しました。

今後も、共生社会を目指す東京の姿を具現化できるように、都立特別支援学校五八校が一丸となり取り組んでまいります。

引き続き、貴会会員の皆様の御支援と御教示をお願い申し上げます。

新入会員の声

教育のDXと役職定年

西多摩支部 西野 良仁

私は現在、再任用三年目で拝島高校に校長として勤務しています。自分自身はまだ現役のつもりで、退職校長会は再任用が終わってからと考えていました。今回、西多摩支部から誘いいただき、父もお世話になっておりますので、入会することになりました。

現在、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）という大きな変化のうねりの中で日々、いかに生徒に還元できるか、学力向上につなげられるかを模索しています。また、令和5年度から定年引上げに伴って60歳での役職定年も実施されます。大きく変わる教育現場で、もう少し生徒のために頑張ってみようと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

令和4年度『第2回会員研修会』のご案内

東京都退職校長会 生涯学習部

令和4年度第2回『会員研修会』を下記の要項で実施いたします。ご参加をお待ちしています。

- 日時 令和4年11月18日(金) 13時30分～16時00分
- 会場 日本退公連・鈴木共同ビル 3階 文京区湯島4-12-3 千代田線湯島駅 徒歩6分
- 材料費としてお一人300円ずつ当日集めさせていただきます。
- 参加希望締め切りは9月30日(金)で、もうすでに過ぎていますが、新しくご希望される方は、至急 生涯学習部長 齊藤 徳蔵 までお電話ください。 Tel 047-370-2635
- 持ち物 手を拭くガーゼハンカチをご用意ください。他の材料、用具は講師の先生がご用意してさせていただきます。

※コロナ禍の影響で、変更になることもあります。ご了承ください。

「生き生き人生をめざして」
～ちぎり絵を楽しもう～

趣旨 ちぎり絵づくりを行うことによって、心身の健康保持と増進、豊かな趣味づくりに寄与し、豊かな人生を歩む糧とする。

講師 荒川 副支部長 米本 雅子先生

支部だより

葛飾区退職校長会60周年

葛飾支部長 沼田 八郎

葛飾区退職校長会は本年度創立60周年をむかえ、三つの事業を計画しました。

①会旗の制定②記念誌の発行
③記念祝賀会の開催

①「会旗の下に」を合言葉に会旗を制定しました。図案は経験豊かな会員に依頼し完成しました。②60周年記念誌を発行しました。退職校長会の歩みと会員の交流を目的とした投稿欄、親しみのある紙面をめざし発行しました。③60周年記念祝賀会に向けて準備を進めました。しかし、残念ながらコロナ7波感染者急増のためやむなく中止としました。

葛飾区退職校長会のさらなる発展に向け、参加する楽しさをより実感出来るような会の運営に努めてまいります。

コロナと共に生きる 府中支部の活動について

府中支部長 保坂 昌代

一九四五年の終戦以来平和で落ち着いた生活を営んで来た日本人にとって行動制限を求められる今回の感染症は大きな試練と波紋を呼んでいます。その中であって見えてきた課題は、国民の道徳性であり、自らの生命に対する危機管理能力の希薄さであると感じています。

地域の児童生徒たちの心の動きや発達にも多少なりとも課題があると危惧しています。更に戦争問題も存在しています。そのような現状の中で退職校長会の活動として出来る限り会議等を中止しない方向でやって来ました。従来からある役員・理事会や教育長による市教育行政に関する講演、美術館等への研修会、会員による不登校児童生徒への取組の実践報告会等。今後は会員の知識・技術等を生かした学校現場への支援を模索中。

ご希望のご予算に合わせて お葬式が執り行えます

東京都退職校長会会員の皆様へ

東京都民互助会は、東京都退職校長会 会員福利厚生の一環として昭和51年4月より団体契約によるお葬式サービスを提供しております。会員ご本人様はもとより、ご家族ご親戚の方々もご利用いただけます。

365日24時間 いつでも 迅速対応



0120-849-544

直葬・家族葬はもちろん ご弔問の多いお葬式まで承ります

Well Life ウェルライフグループ

東京都民互助会 平安祭典

ホームページ



本社:東京都杉並区上荻3-15-17 営業本部:東京都練馬区北町5-18-15 3階 TEL03-3396-7231

コラム 創立70周年に向けて

式典に向け、心を一つに 記念特別事業委員会 委員長 草野一紀

委員長の草野一紀です。ここに一言、お願いを申し上げます。私たちの委員会には他の委員会を支える役割があります。それは、創立70周年記念事業全体の予算の道筋をつけることです。残念ながら60周年の時とは異なり、現在は、会員数の減少に起因する財政難に陥っています。式典運営や記念誌作成のための積立金が不足しており、このままでは満足な周年事業を実施することができない状況です。何とか切り詰め、支出を抑え、形だけでも周年事業を取り繕うという選択肢もあるとは思いますが、しかし、逆境にあるからこそ、心に残る周年行事を行い、本会、東京都退職校長会の存在意義を現場の校長先生方に示していくことが将来の会員増につながることを考えました。

その財源の確保に向け、関係企業（団体）から広告料や協賛金を募る取組も行ってはいますが、広告料はともかく、協賛金については初めての取組であり、いくら集められるのか見当もつかない状況です。委員会として周年事業を成功させるには、会員の皆様からも協賛金を募るしかないとの結論に至りました。また、財源の不足を補うという目的だけではなく、役員や担当の委員を含め、会員全員が記念事業の運営に携わり、たとえ式典に参加できない場合でも、みんなが心を一つにして、東京の教育の発展に寄与するという強い意志を持ち、活動し続ける姿勢こそが、この周年事業を成功させる唯一の道と考えました。

この会報と同時に皆様のお手元に協賛金のご協力についての依頼文が届いていると思います。ここに、多くの会員の皆様からのご理解・ご協力を仰ぎ、特段のご支援を切にお願い申し上げます。

（会長からの特別報告）
令和3年9月の記念特別事業委員会の発足以来、委員長（会長兼務）を補佐し、委員会をリードしてこられた草野一紀副委員長が、7月8日付で委員長職に就きましたので、ここに、ご報告いたします。ご理解と共に、絶大なる応援をお願いいたします。

みんなで祝い喜べる式典を 記念式典委員会 委員長 宇津木順一

4月の第1回委員会で委員会の業務内容を検討確認し、各委員の担当を決めて、会員の皆様全員で祝い喜べる式典を目指して、委員一同精力的に準備を進めています。

現在進めている主な活動は、
①式典の内容・進行計画の検討
②式典での配布資料（式典要項）の内容・構成の検討
③式典会場の構成、音響・掲示物等の計画・準備
④式典会場の座席と来賓への案内、会員の出席案内の検討
⑤追悼の儀の内容と60周年以降に逝去された会員の確認・物故者名簿作成
⑥功労会員の範囲の検討・選出
⑦総会議案書、会報等を参考に「本会10年の歩み」（60周年以降）の確認・作成
⑧記念講演の講師の検討・依頼等です。

なお、式典への会員の皆様の参加については、定員500人（席）の会場ですがコロナ対策を考え半数の250席を上限とし、来賓等の出席を考え役員を含めての会員の席は210席としました。全支部からの参加を基本に支部の会員数に応じて配分、調整し参加をお願いしたいと考えています。

「懐古と前進」をテーマに 記念誌作成委員会 委員長 伊地敦子

記念誌を一層充実した内容にするため「懐古と前進」のテーマを常に掲げプロットの構成を検討いたしました。

本会の会員が組織的に構築してきた熱意溢れる姿を載せられるよう工夫しています。こうしたことが次の世代につながる強力なエネルギーを生むからです。会の主体となっている各支部にはご寄稿をお願いしています。詳しくは、支部長会にてお知らせした通りです。また、地方会員の皆様には地方ならではの思いをいただければ幸いです。

記念誌委員会では、60周年から70周年まで、本会の10年の足跡を辿っています。さらに、支部、各部、委員会、クラブ、会則改正や会員増強プロジェクト等の特別委員会を構成し、具体的に運営を支えてくださった会員のお名前を記載すべく資料を作成しています。

皆様の絶大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

クラブ紹介

囲碁クラブ

委員長 佐々木和廣

昭和48年に第1回囲碁大会が行われてから、50年目の節目を迎えました。当時の会員数は270名を超えていたようでしたが、現在は45名となり少々淋しく思っております。

この記事が目にとまりましたら、左記宛にご一報くだされば嬉しく思います。

一緒に囲碁を楽しみましょう。お待ちいたしております。

・会場 ナーベルお茶の水

・大会 年2回（6月、11月）

・会費 1,000円程度（大会参加費で、年会費なし。）

・連絡先 佐々木和廣

☎090・1999・9047

〒351-0031 朝霞市宮戸4-12-

24-202

園芸クラブ

委員長 天野 正忠

当クラブの活動は、植物の栽

培、育成に関わるもの全般で、盆栽・草花・菜園作業…と多岐です。

それらの見学会や研修会ですが、季節の花木を求めて植物園や公園を巡り、そこで、専門家のご指導を頂いたりします。

春、秋の作品交換会も楽しいひと時です。各自の作品を紹介し、蘊蓄を語った後交換し合います。もちろん持ち込む作品が無くても構いません。何か新しい作品を貰ってウキウキと帰ります。

この様な会ですが、多くの方のご入会をお待ちしています。入会は左記へ

☎03・3752・3810

(天野)

写真クラブ

委員長 甲野 恵美

・撮影会 年7回

・宿泊撮影会 年1回

・作品展 年2回 大泉学園

「ゆめりあホール・ギャラリー」

・作品研究 外部講師による講評 自評会 作品研究会

・写真記録集 写真展出品作品を冊子にまとめる

・写真集 90回展を記念して9月に発行

・懇親会 作品展初日、宿泊撮

影会初日に実施

・入会連絡先 甲野恵美

☎03・3268・7476

090・5504・1276

〒162-0856 新宿区市谷甲良町2-

16

水墨画クラブ

委員長 井上 爽

コロナ禍で二年間開催できなかった作品展を三月末から四月三日まで新宿区中央公園エコギャラリーにて、第二十九回作品展として開催しました。

今年度は、会員数九名、八月

を除く月一回、豊島区駒込地域文化創造館にて水墨画の研修会

を実施しています。

なお、今年度末には、第三十

回作品展の開催を目指して作品

作りに取り組んでいます。

見学自由、入会大歓迎です。

ソフトテニスクラブ

委員長 石原 容子

当クラブは杉

並区立松ノ木中

学校となりの松

ノ木テニスコ

トで活動しています。緑豊かな

和田堀公園の端に位置していま

すので、森林浴を楽しむことも

できます。

教職員時代にラケットに触れ

たことのある方々には、ぜひ一

度ご参加いただきたいです。も

ちろん、テニス経験のない方に

も、お気持ちのある方には、見

学だけでもいらしていただけた

ら幸いです。予備のラケットを

用意してお待ちしています。

連絡は左記へ

☎090・1819・6423

(石原)

メダカ会（短歌クラブ）

委員長 岩井 昭

（今年度 活動は休止）

第七波のコロナ禍のため、休

まざるを得ないのですが、この

状況が改善され次第、始めたい



と考えております。そこで活動について、要項を述べます。

・毎月第二金曜日午後一時半

・都退職校長会事務局

・短歌二首を互評(感想を談合)

・会費月千円(必要な場合)

現在の会員数はごく少数で後期高齢者達です。皆さん遠距離を頑張って出席しております。そのため感染症防止をする。休

会も「やむをえない」と言うことになった次第です。

三十一文字の表現を原則にします。内容は自由ですが、人権無視や事実歪曲はしない。表現の内容の工夫などの作歌技術の工夫向上に努めており、会員自身の立場や生活は尊重し合っております。

岩井 ☎0422322426



・釣り場 金沢八景、江ノ島、下田、浦安

・釣り物 シロギス・アジ・イサキ・ワラサ・イナダ・タチウオ・イシモチ等

・会合 年7回の釣り例会

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。

(敬称略)

(令和4年7月25日現在 本部に届けがあった方)

瑞宝双光章 (3名) 高橋 稔 (江戸川)

長嶋 孝夫 (杉並) 菊池 健二 (江戸川)

(福利厚生部長 増田 稔)

・特別会 年2回の一泊釣り会
・釣り大会 年1回のアジ釣り大会(表彰あり)

・懇親会 研究・懇談会(2月)、新入会員歓迎釣り会(8月)

・ニジマス)

・会報 年5回発行

・会費 年2,500円

・連絡先 町田静隆

☎09029158954

保障が充実。 なのに、ムダがない アフラックの医療保険。

ライフステージの変化に合わせて、
その時々で必要な保障を変えられるため、
ムダなく最適な保障を備えていただけます。



No.1 がん保険
医療保険
保有契約件数
令和元年版 インシュアランス生命保険統計号
約4世帯に1世帯がアフラックの保険に加入
(詳細はホームページをご確認ください)



(募集代理店) (アフラックは代理店制度を採用しています)

三井住友トラスト・ライフパートナーズ株式会社

☎0120-357-212 FAX03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

◎商品の詳細は「パンフレット」「契約概要」などをご確認ください。

(引受保険会社)

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19階
Tel.03-3344-1446

AFツール-2020-0347-2101001 10月22日

(令和4年7月25日届出存在)

物故者



謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年月日	支部名	職種	年齢	名簿頁
山田 清照	2.2.18	粕江	小	97	70
小山 昌治	3.10.20	府中	中高	85	68
小谷野 進	3.11.1	墨田	小	96	5
喜多山 参男	4.3.11	足立	小	87	36
徳江 和雄	4.3.23	北	中	93	25
荒井 正賢	4.3.25	渋谷	高	81	18
中溝 恣	4.3.26	日南	小	95	56
升平 弘	4.4.3	港	小	86	1
岡部 駒橋	4.4.17	西多摩	小	95	80
矢沢 幸一朗	4.4.20	足立	小	86	36
小川 啓	4.5.2	新宿	養護	95	2
小林 由衛	4.5.6	世田谷	中	90	16
茂呂 孝造	4.5.8	板橋	小	88	27
依田 守雄	4.5.15	北多摩	西	77	74
落合 尚男	4.5.17	千葉	北	94	92
吉野 好泰	4.5.18	西多摩	小	91	80
浜中 尚治	4.5.26	杉並	小	96	21
坂本 雄一	4.7.21	練馬	中	92	21

(福利厚生部長 増田 稔)

応募コーナー

短歌

終戦後七十年過ぎし今
学童疎開の辛き夢見る

科織りを今に伝える温海町
学童疎開の湯けむりの里

戦火から守りし子らの集団疎開
歴史は重く明日に語りき

千葉南部支部 大久保明夫

一斉にワーツと喚声子ら入る
川の緑がかき消されゆく

子どもらの素足を打ちて水しぶく
緑を消して白銀に輝る

すんなりと伸びし両脚前に出し
リュックかかえて女兒ねむりいる

中野支部 田中弘志

俳句

追悼句集

膝くづし時ゆるやかに新茶汲む

新緑のその影乱す舟の波

竹落葉雨がたいて過ぎにけり

海に向く十字墓あり風薫る

青葉濃し入日の方に甲斐の国

折々に甲斐を語りぬ桃の花

世田谷支部 小林由衛

(追悼の辞に代えて)

寄稿予定の筆者小林先生はこの五月に急逝されました。残念です。民子夫人から五月の句会への欠席投句原稿をいただき、その中から六句を選び追悼句集として編集しました。

最後の二句の「甲斐」は先生の第二の故郷です。お父様の実家のある大月市に東京大空襲後疎開し、この地で中学、高校と青春の日々を過ごされました。とりわけ六句目の句には心が震えます。この句は同人句誌『雪解』六月号に選集句として掲載された句で、先生の遺稿となりました。この『雪解』五月号の随筆で俳句への思いとこれからの意気込みを書いています。

「九十歳を迎えた長い人生の中で私を鍛えてくれた甲斐と富士山、心に豊かさの処方箋を与えてくれた俳句、そして多くの人との出会いに感謝し、旧交を温め、更に、新たな出会いを楽しみにしていきたいと願っている。」

先生の俳句の本格的な勉強は退職後のことと聞きましたが、退職校長会では、支部や本部での役員としても活躍されました。本部では、総務部長、副会長として長きにわたりご尽力されました。感謝です。ここに改めて哀悼の意を表したいと思えます。合掌。

(担当 梅津 通郎)

編集後記

仕事から、毎月勤務区内の幼・小・中・義務教育学校のたよりを読ませていただいている。子どもは何気ない一言や小さな発見や変化を見つけてのたよりに、物語や歌詞の一部や短歌などから書き出し内容を深めていくたより、校長先生の小さいころの様子を重ね合わせて今の思いをつづられたたより、得意のデッサン画を文章に添えたたよりなど一人一人の校長先生のお人柄がにじみ出たたよりで、毎月楽しみにしている。

私たち退職校長会会報も、会員の皆さまの楽しみの一つになつていたら嬉しいことである。さて、今216号も多くの方々の協力のもと、内容の充実した記事が満載となつている。

コロナ禍で、皆さまとお会いすることが難しい数年が続いているが、会報こそ、本会員の皆さまの心と心をつなぐ大切な架け橋となつていると感じている。会報を通し、会員相互の親睦をさらに深め、今後の活動をより一層充実させていくことを願っている。(石原 容子)